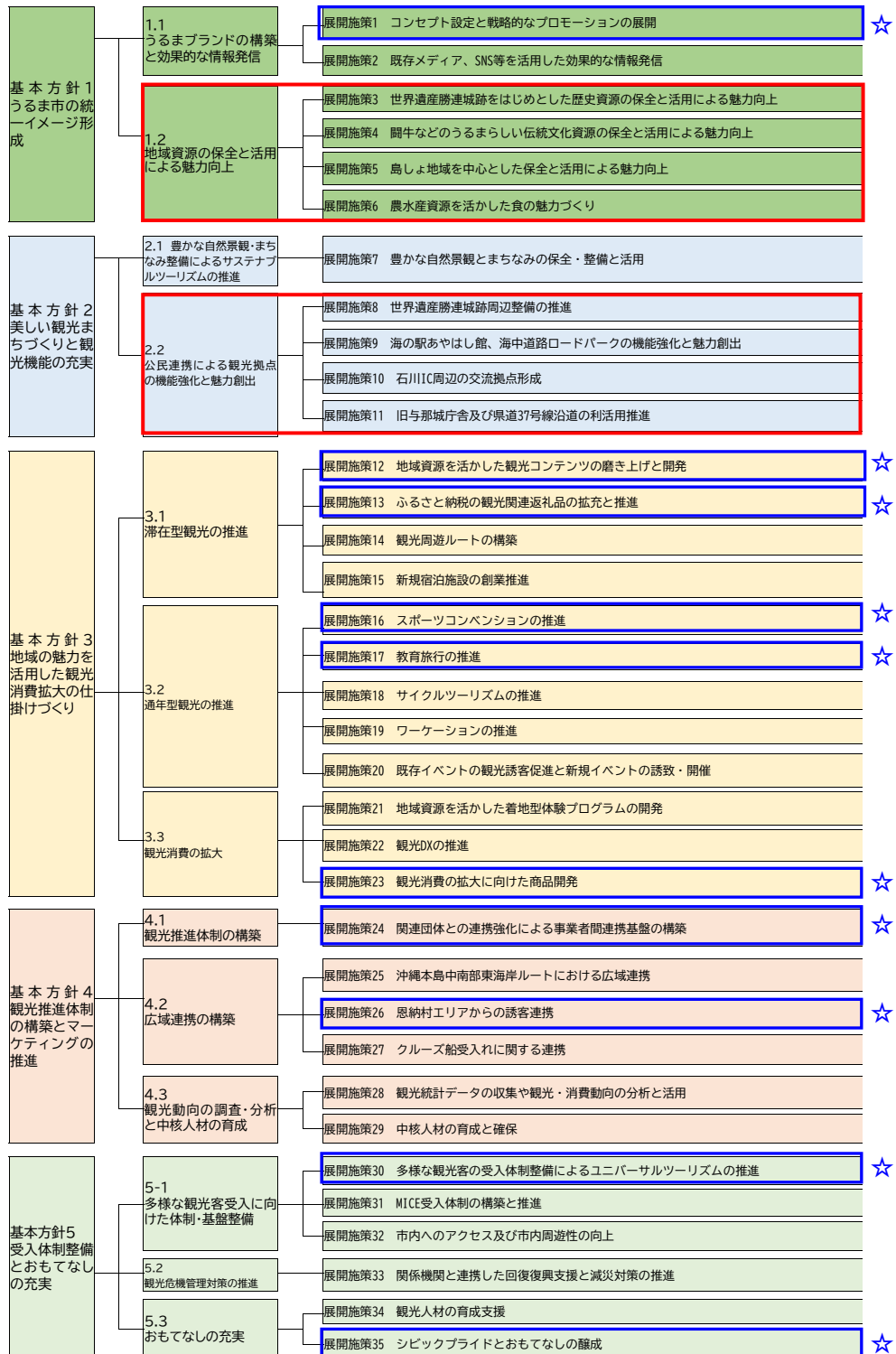


## 第4章 観光振興に向けた基本施策と展開施策

今後5年の観光振興に向けた、5つの基本方針、13の基本施策、35の展開施策の展開図を以下に示します。本計画では、特に重要な取組みとして、「基本施策 1-2. 地域資源の保全と活用による魅力向上」、「基本施策 2-2. 公民連携による観光拠点の機能強化と魅力創出」の2つの基本施策を重要プロジェクトとして位置付けるとともに、重要プロジェクト以外の重点的に推進する10の取組みを重点施策として位置付けます。



凡例：基本施策（赤枠）：重要プロジェクト（2） 展開施策（青枠・☆）：重点施策（10）

## 第4章 観光振興に向けた基本施策と展開施策

■令和5（2023）年度～令和9（2027）年度の5年で、取り組むことにより多くの目標値・重要業績指標の達成が見込まれる重要な基本施策を重要プロジェクトとして位置付けています。5年間の成長目標の達成に向け、うるま市だけでなく、各主体の役割分担及び市民協働と公民連携を図りながら、一丸になり以下の観光施策を推進していきます。

### ▼重要プロジェクト（基本施策）

基本施策 1.2 地域資源の保全と活用による魅力向上	基本施策 2.2 公民連携による観光拠点の機能強化と魅力創出
◆ <b>展開施策 3</b> 世界遺産勝連城跡をはじめとした歴史資源の保全と活用による魅力向上 ⇒勝連城跡周辺をはじめとした観光客の受入環境の整備 ⇒歴史的価値・文化的価値の保全	◆ <b>展開施策 8</b> 世界遺産勝連城跡周辺整備の推進 ⇒消費と滞在の観光拠点としての魅力創出（勝連城跡周辺整備） ⇒PFI手法を採用した公民連携による整備
◆ <b>展開施策 4</b> 闘牛などのうるまらしい伝統文化資源の保全と活用による魅力向上 ⇒「闘牛振興協議会（仮称）」の設立を検討 ⇒「闘牛のまち・うるま」の推進	◆ <b>展開施策 9</b> 海の駅あやはし館、海中道路ロードパークの機能強化と魅力創出 ⇒「ロードパーク活性化基本計画」の策定 ⇒公民連携による民間活力を導入した整備を推進
◆ <b>展開施策 5</b> 島しょ地域を中心とした保全と活用による魅力向上 ⇒島しょ地域を中心とした、地域関係者や観光関連事業者と連携 ⇒適切な観光客の受入れを目指す観光地マネジメント、レスポンスフルツーリズムの推進	◆ <b>展開施策 10</b> 石川IC周辺の交流拠点形成 ⇒ゲートウェイとしての立地を生かした交流拠点の形成 ⇒公民連携手法による事業化を視野に石川IC周辺整備を推進
◆ <b>展開施策 6</b> 農水産資源を活かした食の魅力づくり ⇒うるまマルシェ等の市内観光拠点や物産展やイベント、アンテナショップ等での積極的なプロモーションし、地産地消の取組を推進	◆ <b>展開施策 11</b> 旧与那城庁舎周辺及び県道 37 号線沿道の利活用推進 ⇒旧与那城庁舎周辺：サッカー、陸上競技場等を中心としたスポーツ宿泊・キャンプの受入拠点 ⇒県道 37 号線沿道：景観の改善、小規模な飲食、宿泊、物販等の機能が集積する魅力あるエリアの形成を促進

■基本方針毎に設定した重要業績指標の達成に向け、以下の展開施策（10 施策）を重点施策として位置づけており、より重点的に推進していきます。

### ▼重点施策（展開施策）

◆ <b>展開施策 1</b> コンセプト設定と戦略的なプロモーションの展開 ⇒「感動」をキーワードに観光プロモーションコンセプトを設定 ⇒統一イメージの形成、シティプロモーションの実施	◆ <b>展開施策 23</b> 観光消費の拡大に向けた商品開発 ⇒「つむぐうるま」をコンセプトとして効果的な商品開発又は既存商品のブラッシュアップ、リブランディング ⇒「基幹商品」、「高付加価値化」となる商品開発の支援
◆ <b>展開施策 12</b> 地域資源を活かした観光コンテンツの磨き上げと開発 ⇒観光闘牛など地域資源を活かした観光コンテンツの磨き上げと新たな開発	◆ <b>展開施策 24</b> 関連団体との連携強化による事業者間連携基盤の構築 ⇒観光物産協会によるプロモーション・情報発信 ⇒民間活力の導入によるイベント・施設運営
◆ <b>展開施策 13</b> ふるさと納税の観光関連返礼品の拡充と推進 ⇒個人向けの特産品等のPR強化や企業版ふるさと納税の実施 ⇒電子旅行商品券や観光体験商品等の観光関連返礼品の開発、滞在型観光の推進、関係人口の拡大	◆ <b>展開施策 26</b> 恩納村エリアからの誘客連携 ⇒宿泊機能の強みを持つ恩納村と闘牛などの魅力ある資源を持つうるま市との連携 ⇒恩納村宿泊客がうるま市の観光資源で楽しめる取り組みの推進
◆ <b>展開施策 16</b> スポーツコンベンションの推進 ⇒うるま市スポーツコンベンション推進協議会を中心とした積極的な誘致活動 ⇒プロスポーツチームを受け入れた際の地域経済への波及効果を最大限高める取組み	◆ <b>展開施策 30</b> 多様な観光客の受入体制整備によるユニバーサルツーリズムの推進 ⇒案内板やパンフレット等の多言語化、Wi-Fi 整備、キャッシュレス化、食の提供 ⇒認知度向上に向けた SNS 等による多言語での情報発信
◆ <b>展開施策 17</b> 教育旅行の推進 ⇒民泊連携組織や各種体験事業者、文化・芸能団体などとも連携 ⇒教育旅行プログラムの造成と商品化、販売先の開拓と受入れ体制の構築・強化	◆ <b>展開施策 35</b> シビックプライドとおもてなしの醸成 ⇒市民イベントにおいて特産品や闘牛等に触れる機会の創出 ⇒あまわりパーク、東照間商業施設等の観光拠点やマリッジャー等の観光プログラムを市民が日常的に体験する機会の創出

**基本方針1 うるま市の統一イメージ形成**

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>■うるま市内には「海中道路から島しょ地域」、「世界遺産勝連城跡」、など認知度が高い資源がありますが、その資源を活用したプロモーションの統一が明確に定められておらず、県外におけるうるま市の認知度は、他の自治体よりも低いことが想定されます。</li> <li>■ホームページ、SNS等の各種メディアにおいてプロモーションを実施してきましたが、管理方法や統一的な情報発信については課題がある状況です。</li> </ul>
-------	---

KPI（令和9（2027）年までの成果指標）

	現状値 (令和5(2023)年2月)	目標値 (令和9(2027)年度)
SNS フォロワー数、 市 YouTube の登録数	11,003 件	23,000 件



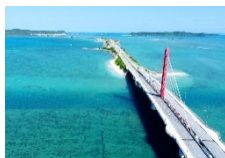
**基本施策1-1. うるまブランドの構築と効果的な情報発信**

**展開施策1 コンセプト設定と戦略的なプロモーションの展開**

- ・うるま市は「海中道路」「世界遺産勝連城跡」「現代版組踊 肝高の阿麻和利」「闘牛」「エイサー」のほか、自然景観、歴史文化、スポーツ等の多様で豊かな資源を数多く有しています。多様で豊かな資源を活かしながら「感動」をキーワードに観光プロモーションコンセプトを設定し、うるま市の統一イメージの形成を図りながらシティプロモーションに取り組みます。
- ・また、コンセプトと誘客ターゲットを明確にし、マスコミ（新聞・雑誌・テレビ等）や旅行代理店へのプロモーションを展開し、訴求力の高い情報発信に取り組みます。
- ・さらに、地域キャラクター（うるうらら）については、利用ルールや管理体制等を整理し、商品化を推進するとともに、観光大使をはじめとしたうるま市出身の著名人等を活用したプロモーションを推進します。

**【取組】**

状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
継続	①効果的なブランド戦略の策定	観光イベント課	観光物産協会
新規	②各セグメントに応じた戦略策定	観光イベント課	観光物産協会
新規	③シティプロモーションの展開	観光イベント課 産業政策課 商工振興課	プロジェクト推進2課 観光物産協会 商工会
新規	④地域キャラクターや観光大使等の利活用	観光イベント課	観光物産協会



海中道路



勝連城跡



肝高の阿麻和利



闘牛



エイサー

展開施策2 既存メディア、SNS等を活用した効果的な情報発信

- うるま市では、ホームページ、SNS、パンフレット等、各種メディアによる情報発信を行ってきました。
- これら構築してきた各種メディアやコンテンツを効果的に活用するため、ターゲットや目的を踏まえ関係者とともに管理体制を見直し効果的な情報発信を行います。
- また、うるま市の認知度向上に向けて引き続き、県外PRイベントへの出店やSNS、ふるさと納税等の実施を図ります。
- さらに、市内の魅力ある宿泊施設を利用してもらえるよう、周知広報について事業者とも連携して取り組みます。

【取組】

状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
継続	①メディア広報の展開	観光物産協会	観光イベント課
継続	②ホームページ等の更新、情報発信	観光物産協会	観光イベント課 秘書広報課 文化財課 商工会
継続	③ホームページコンテンツ開発	観光物産協会	観光イベント課
継続	④SNSによる情報発信	観光物産協会	観光イベント課 商工会
継続	⑤パンフレット・ガイドブック・ポスターの作成・ 外国語対応	観光イベント課 観光物産協会	文化財課
継続	⑥ふるさと納税の推進	商工振興課	観光イベント課 観光物産協会 商工会 産業政策課
継続	⑦まちの情報誌発行の促進	観光物産協会	観光イベント課
継続	⑧観光客による情報拡散プロジェクト	観光物産協会	観光イベント課
新規	⑨既存宿泊施設との連携	観光イベント課 観光物産協会	—

## 基本施策1-2. 地域資源の保全と活用による魅力向上

### 展開施策3 世界遺産勝連城跡をはじめとした歴史資源の保全と活用による魅力向上

- 世界遺産「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の構成資産である勝連城跡においては、令和3(2021)年10月にあまわりパークや市の施設を開館しました。
- 引き続き勝連城跡周辺をはじめとした観光客の受入環境を整えるとともに、勝連城跡及びその周辺地域の歴史的価値・文化的価値の保全を図ります。
- また、市内各地には仲原遺跡など、各地域にて守られてきた有形の文化資源については、地域関係者と連携し適切な保全と整備による魅力向上を図ります。

#### 【取組】

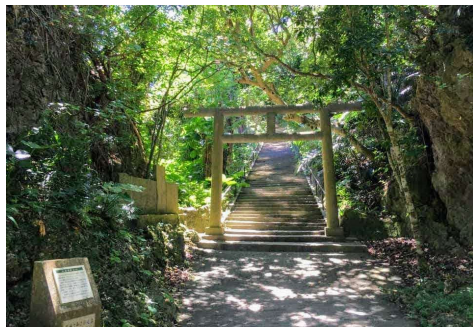
状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
継続	①「勝連城跡周辺文化観光拠点整備基本計画」の推進	プロジェクト推進2課	文化財課 観光イベント課
新規	②仲原遺跡などの地域の文化資源の保全・整備	観光イベント課	文化財課



勝連城跡



仲原遺跡



シルミチュー



アマミチュー

展開施策4 闘牛などのうるまらしい伝統文化資源の保全と活用による魅力向上

- うるま市には県内随一の「闘牛」をはじめ、現代版組踊 肝高の阿麻和利、エイサー、獅子舞、ハーリーなど、これまで受け継がれ守られてきた“うるまらしい” 伝統文化や文化活動があります。
- 闘牛については、庁内関係部署で取りまとめた闘牛振興に係る行動計画表の見直しを図り、関係機関と関係各課の連携を強化していくため「闘牛振興協議会（仮称）」の設立を検討し、「闘牛のまち・うるま」を推進します。
- また、エイサー、獅子舞、ハーリー等の伝統文化資源については各地域の自治会等の運営主体や学校教育機関と連携し、保全と継承を図るとともに、観光活用を促進するための方策を推進します。

【取組】

状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
継続	①闘牛振興に係る行動計画表の見直しと関係機関と関係各課の連携強化	観光イベント課	商工振興課 商工会 文化財課 観光物産協会
継続	②文化観光推進に向けた、うるま市の生活・なりわいと地域資源をつなぐストーリーづくり	観光物産協会	観光イベント課 文化財課
新規	③伝統文化資源の保全・整備につながる取組	文化財課	観光イベント課 プロジェクト推進2課 生涯学習文化振興センター



闘牛



エイサー



獅子舞



ハーリー

展開施策5 島しょ地域を中心とした保全と活用による魅力向上

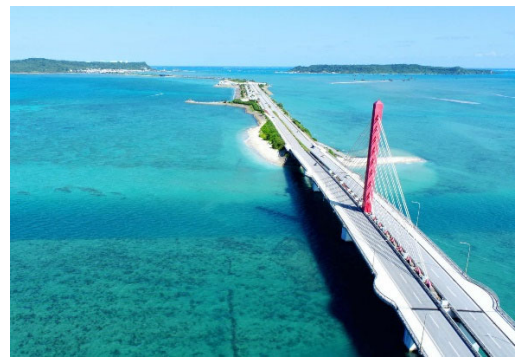
- 浜比嘉島をはじめとしたうるま市の島しょ地域は、観光地として魅力のある地域である一方、観光客の受け入れにあたっては地域住民の生活の妨げとならないようマネジメントしていくことが重要です。
- 島しょ地域を中心として、地域関係者や観光関連事業者と連携のもと、適切な観光客の受入れを目指す観光地マネジメントを進めます。
- また、地域の御嶽や史跡等に訪れる観光客に対し、保全や整備に資する資金等の協力を依頼など、レスポンシブルツーリズム（責任ある観光）の推進を図ります。

【取組】

状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
新規	①島しょ地域を中心とした観光地マネジメントの検討	観光イベント課	観光物産協会
新規	②事業者・地域と連携したフィールドの保全	観光イベント課	観光物産協会



島しょ地域のまちなみ



海中道路

展開施策6 農水産資源を活かした食の魅力づくり

- うるま市の農水産物等の市産品を活かして、事業者や市内各課と連携し、意見交換等を図りながら食の魅力づくりを進めてきました。
- 引き続き食の魅力づくりとして、商品開発および開発した商品は、うるマルシェをはじめとした市内観光拠点や物産展やイベント、アンテナショップ等で積極的にプロモーションを展開し、地産地消の取組を推進します。
- また、優れた農水産物、加工食品、体験型観光商品等を「うるまブランド」に指定するなど、市のイメージアップ、情報発信を図ります。
- さらに、こうした食の魅力づくりにより県外観光客だけではなく、県民もターゲットとすることで県民旅行（マイクロツーリズム）の促進につなげます。

【取組】

状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
継続	①特産品の開発、販売、津堅島における農産物の高付加価値化の取組み	農林水産政策課 商工振興課	商工会
継続	②地産地消の取組み推進	農林水産政策課 商工振興課	商工会
継続	③観光関連事業者と農家・漁家による意見交換、アイデア出しの場の設定	農林水産政策課	商工振興課 観光イベント課
継続	④物産展の開催、参加促進	商工振興課 農林水産政策課 商工会	観光イベント課 観光物産協会
継続	⑤効果的なブランド戦略の策定	商工振興課	観光イベント課 観光物産協会 商工会
継続	⑥観光物産協会や観光事業者と連携し、体験型観光メニューの開発及び民泊事業の展開検討	観光イベント課 観光物産協会	産業政策課 農林水産政策課



うるマルシェ



あま SUN



にんじん



もずく



**基本方針 2 美しい観光まちづくりと観光機能の充実**

<b>現状と課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■うるま市は豊かな自然や景観が魅力ですが、街路樹や道路の舗装、沿道看板の整備が課題です。</li> <li>■勝連城跡周辺、あやはし館・ロードパーク、石川IC周辺等の観光の拠点となる施設については公民連携を視野にさらなる魅力創出や機能強化を進めていく必要があります。また、旧庁舎等の活用により新たな観光拠点の創出も重要です。</li> </ul>
--------------	--

KPI（令和9（2027）年までの成果指標）

	現状値 （令和4（2022）年度調査）	目標値 （令和9（2027）年度）
リピーター率	74.0%	70.0%



**基本施策 2-1. 豊かな自然景観・まちなみ整備によるサステナブルツーリズムの推進**

**展開施策 7 豊かな自然景観とまちなみの保全・整備と活用**

- うるま市は観光客の多くが訪れる海中道路や高台から眺める景観、ビーチから眺める夕日や青い海、島しょ地域の赤瓦葺きのような昔ながらのたたずまいを残す集落など、観光資源としての魅力をもつ美しい自然景観や特色あるまちなみを数多く有しています。
- 自然環境や景観資源、沖縄らしいまちなみ等を「うるま市景観計画」に基づいた保全・整備を継続実施することにより、持続可能（サステナブル）な観光地を目指すとともに、保養に適した居心地がよい観光地を形成し、観光客の再来訪意欲の向上を図ります。
- また、景観資源の保全だけでなく、景勝地の来訪客拡大を図る環境整備や市内周遊を高める観光案内板の設置等、豊かな自然景観を活かした観光振興の取り組みを推進します。
- さらに、雰囲気あるまちなみを整備するため、観光資源へのアクセス経路となる沿道を中心に、街路樹づくり、沿道看板の統一化に取り組みます。

**【取組】**

状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
継続	①うるま市景観計画に基づくまちなみづくり	公園整備課	観光イベント課
継続	②みどりの基本計画に基づくまちなみづくり	公園整備課	都市政策課
継続	③緑でつなぐ沿道整備	維持管理課	公園整備課
継続	④環境基本計画に基づく環境の保全と創出	環境政策課	観光イベント課
新規	⑤景勝地の環境整備	観光イベント課	維持管理課



果報バンタ



屋慶名展望台からの景色

※展望台は老朽化のため解体されています



野鳥の森公園からの景色



石川高原展望台からの景色

## 基本施策 2-2. 公民連携による観光拠点の機能強化と魅力創出

### 展開施策 8 世界遺産勝連城跡周辺整備の推進

- 世界遺産勝連城跡は、うるま市における主要観光スポットとして、多くの観光客で賑わっており、消費拡大や滞在時間延伸につながる機能の集積を図るため勝連城跡周辺整備を進めてきました。
- 令和3（2021）年には、勝連城跡の近接エリアに、出土品や市の歴史・文化の展示、肝高の阿麻和利の物語を伝えるライブパフォーマンスなどを楽しめるあまわりパーク「歴史文化施設」が開館しました。
- 消費と滞在の観光拠点としての魅力創出を図るため、勝連・与那城地域まちづくり推進計画のリーディングプロジェクトとして、引き続き勝連城跡周辺整備を推進します。
- また、周辺整備の手法としては、民間事業者の資金やノウハウを活用して魅力的な観光拠点を効果的に形成するためPFI手法を採用した公民連携による整備を推進します。

#### 【取組】

状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
継続	①勝連城跡及びあまわりパーク等を拠点とした誘客促進	プロジェクト推進2課	観光イベント課
継続	②あまわりパーク内の観光ターミナルを活用した観光促進	観光イベント課	プロジェクト推進2課
継続	③観光案内所の設置検討	観光イベント課	観光物産協会



勝連城跡からみる周辺整備イメージ

展開施策9 海の駅あやはし館、海中道路ロードパークの機能強化と魅力創出

- 海中道路の中央部に位置する海の駅あやはし館は、来訪者の休憩スポットや消費・滞在の場として多くの観光客と県内客で賑わっています。
- 海の駅あやはし館は、管理運営面における諸問題を整理し、観光拠点としての魅力向上に取り組めます。
- また、海の駅あやはし館に隣接する駐車場「海中道路ロードパーク」は、所有が沖縄県、管理がうるま市となっており、市主導による柔軟な利活用が難しい状況にあり、市の権限拡大に向けた沖縄県との協議が進められています。
- さらに、市への権限移譲の機運が高まってきている中、海の駅あやはし館とロードパークの一体的な機能強化整備による魅力創出を図るため令和4（2022）年度から「ロードパーク活性化基本計画」の策定に取り組んでいます。
- 加えて、令和5（2023）年度中に策定予定の「ロードパーク活性化基本計画」をもとに公民連携による民間活力の導入を図ることのできる手法の採用を念頭に置いた整備を推進します。

【取組】

状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
継続	①あやはし館、ロードパークの魅力創出と機能強化	観光イベント課	スポーツ課
継続	②観光案内所の継続実施	観光物産協会	観光イベント課



海の駅あやはし館



海中道路ロードパーク

### 展開施策 10 石川 IC 周辺の交流拠点形成

- 石川 IC 周辺には、闘牛大会等の集客イベントが数多く開催される「石川多目的ドーム」や起業支援等を行うインキュベーション施設「石川地域活性化センター舞天館」、令和3（2021）年に公民連携により公園内にカフェをオープンした「石川運動広場」が立地しています。
- 集客イベント開催時の駐車場確保と沖縄自動車道を利用して西海岸エリア等に訪れる観光客等の市内への観光周遊につなげる機能整備等が求められており、石川 IC 周辺における交流拠点形成の検討を行ってきました。特に集客イベント開催時における路上駐車対策が大きな課題とされています。
- 「石川地域まちづくり推進計画」をもとに石川 IC への近接性や沖縄本島北部と中南部をつなぐゲートウェイとしての立地を生かした交流拠点（駐車場や交通結節点機能、道の駅等の集客施設）の形成を推進し、周辺都市から石川地域への人流の創出や地域住民の利便性の向上を図るため、公民連携手法による事業化を視野に引き続き石川 IC 周辺整備を推進します。
- また、石川 IC 周辺整備が実施されるまでの間、「石川多目的ドーム」や「石川地域活性化センター舞天館」、「石川運動広場」の連携を強化し、一体的な管理運営を含めた利便性向上や魅力創出、誘客促進を図ります。

**【取組】**

状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
新規	①石川 IC 周辺整備の交流拠点形成 （仮称：ブルファイトパーク）	プロジェクト推進 2課 スポーツ課 観光イベント課	企画政策課 産業政策課 農林水産政策課 都市政策課



石川 IC 周辺整備イメージ 出典：うるま市石川地域まちづくり推進計画

展開施策 11 旧与那城庁舎周辺及び県道 37 号線沿道の利活用推進

- 旧与那城庁舎は勝連・与那城地域の主要観光スポットである世界遺産勝連城跡と海中道路をつなぐ位置にあります。また、旧与那城庁舎から海岸沿いの県道 37 号線を北西に進むと、物販、飲食、バーベキュー等の機能を有する東照間商業等施設（TERUMA）がありますが、その間の2キロ弱には店舗がほとんどない状況です。
- 旧与那城庁舎周辺及び県道 37 号線沿道については、「勝連・与那城地域まちづくり推進計画」に基づき利活用推進を図ります。具体的には、旧与那城庁舎周辺は、公民連携を視野にいれながら、陸上競技場におけるサッカー、陸上競技場等を中心としたスポーツ合宿・キャンプの受入拠点としての利活用を推進するとともに、海中道路におけるマリンスポーツ・アクティビティやサイクリング等に関連する機能の導入もあわせて検討するなど付加価値の高い拠点の形成を目指します。
- また、県道 37 号線沿道では、沿道利活用活性化に向けた土地利用への見直しを図るとともに、海岸の視界を遮る樹木を伐採するなどの景観の改善を行うなどのエリア価値向上に向けた取組を進め、小規模な飲食、宿泊、物販等の機能が集積する魅力あるエリアの形成を促進します。

【取組】

状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
新規	①旧与那城庁舎周辺及び県道 37 号線沿道の利活用 ～（仮称）あやはしスポーツビレッジ～	プロジェクト推進 2課 観光イベント課 スポーツ課	企画政策課 都市政策課 農林水産政策課 農林水産整備課 環境政策課 公園整備課



旧与那城庁舎周辺の利活用イメージ 出典：うるま市勝連・与那城地域まちづくり推進計画

**基本方針 3 地域の魅力を活用した観光消費拡大の仕掛けづくり**

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ マリンレジャーや観光闘牛などうるま市ならではの観光プログラムについては事業者間および官民の連携をより強固にしていくことで周遊向上を図ることが重要です。</li> <li>■ 観光事業者の生産性向上や魅力的な観光商品の開発が求められます。</li> <li>■ スポーツコンベンションやサイクルツーリズム、ワーケーションなど夏季だけではない通年で体験することのできる観光を推進することが重要です。</li> <li>■ うるま市の弱みである宿泊施設の確保については引き続き官民一体となって積極的に推進することが重要です。</li> </ul>
-------	---

KPI（令和9（2027）年までの成果指標）

	現状値 (令和4(2022)年度調査)	目標値 (令和9(2027)年度)
宿泊日数	0.6泊	0.8泊



**基本施策 3-1. 滞在型観光の推進**

**展開施策 12 地域資源を活かした観光コンテンツの磨き上げと開発**

- 沖縄における闘牛は明治後期から現代まで継承されている沖縄独自の文化であり、本市の石川多目的ドームでは全島闘牛大会など各種大会が年間を通じて開催しています。闘牛のほか、うるま市では地域資源を活かした観光コンテンツを多く造成してきました。
- 滞在型観光の推進のため、これら観光コンテンツの磨き上げと新たな開発を推進します。
- また、宿泊施設や観光事業者とも連携し、観光客を対象にした「観光闘牛」を推進します。
- 加えて、海中道路には早朝からサイクリストが海中道路に多く訪れるなど、日中以外の時間帯のポテンシャルを秘めているため、うるま市の滞在日数を確保するために早朝および夜間におけるプログラムの充実を図ります。

【取組】

状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
継続	①闘牛の観光活用推進	観光イベント課	観光物産協会
継続	②闘牛イベントの年間開催等の支援	観光イベント課	観光物産協会
継続	③石川多目的ドームを活用したイベントの推進	観光イベント課	観光物産協会 スポーツ課
新規	④早朝（サンライズコンテンツ）の推進	観光イベント課	観光物産協会 商工会
新規	⑤ナイトコンテンツの充実	観光イベント課	観光物産協会 商工会



早朝の海中道路



石川多目的ドーム

展開施策 13 ふるさと納税の観光関連返礼品の拡充と推進

- 平成 20（2008）年5月に地方税法が改正され、地方公共団体へ寄附を行った場合の寄附金控除制度、ふるさと納税制度が開始されました。うるま市では、返礼品のメニューの増加、民間のポータルサイトの活用拡大など受入強化に努めてきました。
- 引き続き個人向けの特産品等のPR強化や企業版ふるさと納税を行うとともに、電子旅行商品券や観光体験商品等の観光関連返礼品を開発し、滞在型観光を推進することで、うるま市と多様な関わりのある方々を増やし、関係人口の拡大を図ります。
- また、市内の消費拡大を図るため、旅先で寄付を行い、その場で市内において活用できる電子商品券などを受け取れる、新たなふるさと納税「旅先納税」の導入を図ります。

【取組】

状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
継続	①ふるさと納税（個人）の推進	商工振興課	産業政策課 企画政策課
継続	②企業版ふるさと納税の推進	商工振興課	産業政策課 企画政策課
新規	③電子商品券の開発	商工振興課	産業政策課 商工会

展開施策 14 観光周遊ルートの構築

- うるま市は歴史文化、自然環境、マリンスポーツなど多様なコンテンツが各エリアに点在しており多様な観光体験が可能です。
- これらコンテンツを周遊するために、石川多目的ドーム、世界遺産勝連城跡及びあまわりパーク、東照間商業等施設、ロードパーク及び海の駅あやはし館、うるマルシェ等の観光重要拠点を軸としたゾーニングを図るとともにセグメントに応じた周遊ルートの構築を図ります。
- また、きむたかホールの機能強化を行い、「現代版組踊 肝高の阿麻和利」を活かした文化観光ネットワークの構築を図ります。

【取組】

状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
継続	①周遊観光プログラムの開発、販売	観光イベント課	観光物産協会
新規	②きむたかホールの機能強化による文化観光ネットワークの構築	生涯学習文化振興センター	プロジェクト推進2課 観光イベント課



きむたかホール



現代版組踊 肝高の阿麻和利

展開施策 15 新規宿泊施設の創業推進

- うるま市は、客室数が30室を超える中型以上の宿泊施設が少なく、新規宿泊施設の誘致や創業に向けた相談支援、既存公共施設の跡地活用を検討しており、石川地域に大型ホテルが立地したほか、旧浜中学校跡地には、宿泊機能を備えたコワーキング施設「浜比嘉島地域交流拠点施設／hamachū（ハマチュー）」が令和4（2022）年7月にオープンしました。
- 観光客の受入環境を整備するため、自然やまちなみの景観に配慮しながら、引き続き新規宿泊施設の創業推進に積極的に取り組むほか、既存公共施設の跡地活用を推進します。

【取組】

状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
継続	①宿泊施設の確保	産業政策課	観光イベント課
継続	②既存施設の活用	観光イベント課	産業政策課



浜比嘉島交流拠点施設 hamachū



hamachū 1階売店



## 基本施策 3-2. 通年型観光の推進

### 展開施策 16 スポーツコンベンションの推進

- 一年中温暖な気候は、キャンプ・合宿を検討しているプロ・アマチュアスポーツチームにとって、魅力的な環境であり、継続的な施設整備と積極的な誘致活動、社会情勢等により国内プロ野球チーム、プロサッカーチームがキャンプ・合宿に訪れるようになりました。
- スポーツ施設の充実を図りつつ、うるま市スポーツコンベンション推進協議会を中心として、積極的な誘致活動を継続し、プロスポーツチームを受け入れした際の地域経済への波及効果を最大限高める取り組みを推進します。
- また、うるま市のスポーツに係る産業的・経済的・教育的等、様々な視点における発展を目指すため、うるま市スポーツコンベンション推進協議会のキャンプ・合宿の誘致・受入機能等を自立的に果たします。加えて、地域のスポーツクラブ活動の運営管理やキャンプ・合宿受入チームと地域スポーツクラブの相互連携による地域のスポーツ環境整備に取り組む組織「うるま市スポーツコミッション（仮称）」の設立を図ります。

#### 【取組】

状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
継続	①スポーツコンベンションの推進	スポーツ課	観光イベント課
継続	②（仮称）うるま市総合アリーナの整備	プロジェクト推進1課	スポーツ課
継続	③スポーツ施設の改修及び機能強化、既存施設の活用方策の検討	スポーツ課	資産マネジメント課

#### 展開施策 16 の KPI（令和 9（2027）年までの成果指標）

	現状値 （令和元（2019）年）	目標値 （令和 9（2027）年度）
プロスポーツ等の誘致による経済波及効果	27,128 千円	65,108 千円

※本展開施策は個別に KPI を設定し確認します



阪神タイガース2軍のキャンプ



町田ゼルビアのキャンプ

### 展開施策 17 教育旅行の推進

- ・うるま市は歴史・文化や自然など教育旅行に適した地域資源や体験プログラムを有していますが、うるま市内に宿泊した修学旅行生は体験プログラムを市外にて体験するなど課題がある状況です。
- ・民泊連携組織や各種体験事業者、文化・芸能団体などとも連携し、役割分担を明確にしながら、教育旅行（修学旅行等）プログラムの造成と商品化、販売先の開拓と受入れ体制の構築・強化を進めます。
- ・また、教育旅行においては、「現代版組踊 肝高の阿麻和利」を活用したプログラムの造成も図ります。

【取組】

状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
新規	①教育旅行（修学旅行等）プログラムの造成・商品化	観光イベント課	観光物産協会
新規	②販売先の開拓と受入れ体制の構築・強化	観光イベント課	観光物産協会

#### 展開施策 17 の KPI（令和 9（2027）年までの成果指標）

	現状値 （令和元（2019）年）	目標値 （令和 9（2027）年度）
教育旅行数等の誘致数	210 件	216 件

※本展開施策は個別に KPI を設定し確認していきます

### 展開施策 18 サイクルツーリズムの推進

- ・うるま市には、海中道路をはじめとするサイクリングに魅力的なコースがあります。
- ・自転車ネットワーク計画に基づく施策推進を行い、安全で走りやすい自転車通行空間の整備、レンタサイクル普及促進の支援、サイクルサポーターの拡大や案内サインの設置などを推進し、国内外からの誘客を図ります。

【取組】

状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
継続	①サイクルツーリズムにて誘客するための受入環境の整備支援	スポーツ課	観光物産協会 観光イベント課
継続	②勝連半島及び島しょ地域にて、レンタサイクル普及促進の支援	スポーツ課 都市政策課	観光イベント課 観光物産協会
継続	③自転車ネットワーク計画に基づく施策推進	都市政策課	スポーツ課 道路整備課



サイクルツーリズム



サイクルツーリズムサポーター

展開施策 19 ワークেশョンの推進

- ・コワーキング施設「浜比嘉島地域交流拠点施設／hamachū（ハマチュー）」を活用したワークেশョンを推進し、一年を通じた交流人口及び関係人口の拡大を図ります。
- ・また、沖縄本島西海岸エリアの休養目的（バケーション）を強みとしたワークেশョンとの差別化を図り、仕事（ワーク）・企業連携目的や地域課題解決に向けたワークেশョンを推進します。
- ・さらに、新規ビジネスの創出や企業誘致のツールとしてワークেশョンを活用し、連携企業による定期的な長期滞在者等の創出を目指します。

【取組】

状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
新規	①浜比嘉島地域交流拠点施設／hamachū（ハマチュー）を活用したワークেশョンの推進	産業政策課	観光イベント課
新規	②海中道路周辺のロケーションを活かしたワークেশョン事業の展開	産業政策課	観光イベント課
新規	③企業と連携したワークেশョンの推進	産業政策課	観光イベント課

展開施策 20 既存イベントの観光誘客促進と新規イベントの誘致・開催

- ・うるま市では闘牛大会や龍神の宴、各地域のエイサーが一同に集まるエイサーまつり、島しょ地域の魅力を活かした文化イベントなど、県内外の観光客の集客が見込める多様なイベントがあります。このようなイベントを観光シーズン以外で継続的に実施することにより、季節に応じたうるま市の魅力を伝え、観光客の平準化に寄与することが期待されます。
- ・イベントを通じて、市外居住者を対象に、うるま市への継続的な来訪や関心を持ってもらえるよう効果的なイベントの運営やPRを図ります。
- ・また、イベントの運営主体にあたっては、行政のみならず、民間事業者との連携や委託も検討し、行政や観光物産協会は情報発信等の支援に注力することで、効果的かつ持続的な運営を図ります。

【取組】

状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
継続	①既存イベントの推進（龍神の宴 等）	観光イベント課	文化財課 観光物産協会 商工会
継続	②エイサーの観光活用の推進	観光イベント課	観光物産協会
継続	③全島獅子舞フェスティバルの観光への活用	観光イベント課	文化財課
継続	④ハーリー大会の観光誘客	観光イベント課	秘書広報課
継続	⑤新規イベントの開発支援	観光イベント課	観光物産協会
継続	⑥イベント誘致による平準化の取組	観光イベント課	観光物産協会
継続	⑦あやはし海中ロードレース大会の充実化	観光イベント課	スポーツ課



うるま市エイサーまつり



龍神の宴



うるまシマダカラ芸術祭

### 基本施策 3-3. 観光消費の拡大

#### 展開施策 21 地域資源を活かした着地型体験プログラムの開発

- ・うるま市ではマリンスポーツや自然体験等、民間事業者が主体となり着地型体験プログラムを推進してきました。今後は、さらなる観光消費の拡大に向けて、地域資源の発掘や開発を推進します。
- ・地域資源の発掘に向けては、市民目線での観光資源としての魅力を抽出するとともに、地域資源のデータベース化を図り、地域資源を活用した着地型体験プログラムの構築に資する情報を整理します。
- ・また、うるま市の山岳、河川、海岸、島しょ地域等の地域資源を活用し、沢下り、登山、洞窟探検等のアドベンチャーツーリズム、マリンスポーツなどの既存プログラムの磨き上げ、モータースポーツなど新たなプログラムの開発支援を行います。
- ・さらに、勝連・与那城地域まちづくり推進計画に基づき世界遺産勝連城跡及びあまわりパーク、きむたかホール等を拠点とした歴史・文化ツーリズムを促進します。

#### 【取組】

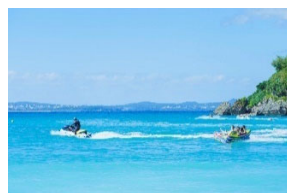
状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
継続	①フォトコンテスト等の地域資源の掘り起こし	観光物産協会	観光イベント課
継続	②観光資源データベースの構築・活用	観光物産協会	観光イベント課
継続	③地域特性を活かした滞在型観光コンテンツづくり	商工振興課 観光イベント課	観光物産協会
新規	④石川川・天願川等の河川や石川岳等を活用した新たなツーリズムの開発支援	観光イベント課	観光物産協会
継続	⑤マリンスポーツプログラムの開発支援	観光物産協会	観光イベント課
継続	⑥島しょ地域を活用した体験プログラムの開発支援	観光物産協会	観光イベント課
継続	⑦勝連城跡を活用した体験プログラムの開発支援	観光イベント課	プロジェクト推進2課 観光物産協会
新規	⑧肝高の阿麻和利を活かした観光体験プログラムの推進	観光イベント課	プロジェクト推進2課 生涯学習文化振興センター 観光物産協会
新規	⑨地域資源を活用したモータースポーツツーリズムの展開検討	プロジェクト推進1課	観光イベント課 スポーツ課



石川川



石川岳



マリンスポーツ



Cave Okinawa

展開施策 22 観光 DX の推進

- 観光分野におけるDX（デジタルトランスフォーメーション）の推進により、旅行者の利便性向上や観光産業における生産性向上等に取り組むとともに、地域間・観光事業者間の連携を通じた地域活性化や持続可能な経済社会の実現を目指した取組が必要です。例えば、顧客管理予約システムによる情報管理の高度化・人員配置の効率化、非接触チェックイン・システム等が挙げられます。
- 観光DXの推進を踏まえ、観光産業の生産性向上の取組みを支援し、旅行者に対する利便性の向上、消費機会の拡大を図ります。
- また、地域の観光地をマネジメントする際にDX化を進めることで持続的な観光地づくりを図ります。

【取組】

状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
新規	①観光関連事業者の生産性向上	商工振興課 観光イベント課	観光物産協会 商工会

展開施策 23 観光消費の拡大に向けた商品開発

- うるま市内における商品の価値、認知度及び売上げ向上を図るため、「つむぐうるま※」をコンセプトとして効果的な商品開発又は既存商品のブラッシュアップ、リブランディング等に向けて、うるま市を牽引する「基幹商品」、「高付加価値化」となる商品開発の支援を図ります。
- 観光消費の拡大に向けては、開発した商品に対し、販路開拓・流通拡大支援、PR・プロモーション活動の支援等を実施します。

※琉球の歴史、島しょ地域の手つかずの自然、文化や芸能が受け継がれる暮らしなど、うるま市の持つ「本物の沖縄」の魅力を伝える「サステナブルなものづくり」を現したコンセプト。

【取組】

状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
既存	①特産品開発及びプロモーション支援	商工振興課 観光イベント課	観光物産協会 商工会



小麦畑



もずく畑



ビーグ



津堅島のニンジン畑

**基本方針 4 観光推進体制の構築とマーケティングの推進**

<b>現状と課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■プロモーションやイベント等について市にて一部実施してきましたが、効果的に推進していくため観光協会との連携や民間活力の導入が重要となります。</li> <li>■これまで観光まちづくり推進協議会等において各種目標値の共有を図ってきました。データ整理の人材育成を図りながら効果的なデータ取得・分析を進めることが重要です。</li> </ul>
--------------	---

KPI（令和9（2027）年までの成果指標）

	現状値 (令和4(2022)年度調査)	目標値 (令和9(2027)年度)
うるま市への来訪割合	42.2%	50.0%



**基本施策 4-1. 観光推進体制の構築**

**展開施策 24 関連団体との連携強化による事業者間連携基盤の構築**

- うるま市の観光振興に向けては市行政、観光物産協会、商工会、観光事業者等その他観光関連団体との役割分担、連携・協働が重要となります。
- プロモーション・情報発信については観光物産協会、イベント・施設運営については民間活力の導入を図ります。
- また、市内の農水商工業者等と観光事業者とのマッチングやテストツアーの実施等を支援し、魅力的な着地型観光商品づくりを推進します。
- さらに、事業者間にて積極的に観光振興について協議・意見交換できる場の構築を図ります。

**【取組】**

状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
新規	①観光関連団体との連携・協働	観光物産協会	観光イベント課 商工会
新規	②市内の農水商工業者等が持つ観光商品・サービスを活用した着地型観光メニューの開発等に向けて、観光事業者とのマッチング等を支援	観光物産協会	観光イベント課 商工会
新規	③市内事業者の意見交換会の構築	観光物産協会	観光イベント課 商工会

## 基本施策 4-2. 広域連携の構築

### 展開施策 25 沖縄本島中部東海岸ルートにおける広域連携

- 沖縄県では、本島東海岸地域の活性化・発展に向け、令和3（2021）年3月に沖縄県東海岸サンライズベルト構想を策定しました。
- 本構想を踏まえながら、南城市から続く東海岸エリアの観光誘客周遊ルートの構築に向けた広域連携を引き続き推進します。
- また、環金武湾地域における域内の持続的な発展と産業活性化に向けて、うるま市・金武町・宜野座村の連携により令和元（2019）年に設立した「環金武湾振興協議会」をもとに、観光誘客に向けた広域連携を引き続き推進します。
- さらに、隣接する沖縄市とは、修学旅行やプロスポーツキャンプ、イベント開催等における誘客促進につながる連携を推進していくほか、沖縄市が中心となって実施している沖縄の歴史・文化体験による観光周遊ルートを形成する事業へ積極的に協力します。

#### 【取組】

状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
継続	①東海岸地域との連携	観光イベント課	観光物産協会
継続	②環金武湾連携（金武町、宜野座村）	産業政策課	観光イベント課
新規	③沖縄市との連携	観光イベント課	観光物産協会

### 展開施策 26 恩納村エリアからの誘客連携

- 恩納村に宿泊し石川多目的ドームにて観光闘牛を組み込む修学旅行プログラムが増えつつあります。
- 今後、宿泊機能の強みを持つ恩納村と闘牛などの魅力ある資源を持つうるま市との連携により、お互いの強みを活かして、恩納村の宿泊客がうるま市の観光資源で楽しめる取り組みを推進します。

#### 【取組】

状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
継続	①恩納村エリアからの誘客連携	観光イベント課 観光物産協会	商工振興課 商工会

### 展開施策 27 クルーズ船受入れに関する連携

- コロナ禍以前は中城湾港にはクルーズ船が寄港していましたが、令和5（2023）年3月現在は受け入れが中断している状況です。
- 今後、中城湾港におけるクルーズ船の寄港を見据えた受け入れ体制の整理を図ります。

#### 【取組】

状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
継続	①中城湾港クルーズ船促進連絡協議会を構成する市町村との連携	観光イベント課	観光物産協会 産業政策課

### 基本施策 4-3. 観光動向の調査・分析と中核人材の育成

#### 展開施策 28 観光統計データの収集や観光・消費動向の分析と活用

- うるま市はこれまで観光事業者と連携を図り本市の主要な集客施設における入場者数を把握するとともに、観光客を対象とした定期的なアンケート調査の実施により来訪経験、来訪回数、一人当たりの消費金額、満足度等の基礎データの収集を行ってきました。
- 今後も引き続き上記の基礎データの収集を実施するとともに、収集したデータを用いて、観光動向、消費動向を分析し誘客ターゲットを明確化し、戦略的な施策の検討を実施します。

【取組】

状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
継続	①観光統計データの収集	観光イベント課	観光物産協会
継続	②観光動向調査の実施	観光イベント課	観光物産協会
継続	③地域主導で分析するための組織として、マーケティング組織の設置検討	観光イベント課	観光物産協会

#### 展開施策 29 中核人材の育成と確保

- 観光振興の発展のためには継続的かつ発展的なデータ収集・分析が重要です。
- 行政、観光物産協会、観光事業者の役割分担を見直すとともに、観光振興を戦略的に企画・推進できる中核人材の育成・確保に引き続き取り組みます。
- また、地域おこし企業人等の制度を活用し、マーケティング等に関する専門的知識を有する外部人材の採用の推進を図ります。

【取組】

状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
継続	①データ分析に係る人材確保、育成	観光イベント課	産業政策課 商工振興課 観光物産協会
新規	②外部人材の活用支援	観光イベント課	産業政策課 商工振興課 観光物産協会



## 基本方針 5 受入体制整備とおもてなしの充実

現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ インバウンドが回復しつつあるなか、多様な観光客の受入を進めていくことが重要です。</li> <li>■ 世界遺産勝連城跡を中心として MICE プログラムを検討してきましたが、今後は継続的な実施に向けた体制の構築が必要です。</li> <li>■ コロナ禍の影響を受けた観光事業者については、いち早い回復復興支援が重要となります。</li> <li>■ 観光客、事業者ともにうるま市までのアクセス、市内周遊が課題と認識しており対応が必要です。</li> <li>■ うるま市観光を醸成していくためには市民によるシビックプライドの醸成が重要です。</li> </ul>
-------	--

※本基本方針には KPI（令和 9（2027）年までの成果指標）を設定しません。

### 基本施策 5-1. 多様な観光客受入に向けた体制・基盤整備

#### 展開施策 30 多様な観光客の受入体制整備によるユニバーサルツーリズムの推進

- コロナ禍により減少していたインバウンドは今後、回復が見込まれます。
- インバウンドの回復を見据えて、案内板やパンフレット等の多言語化、Wi-Fi 整備、キャッシュレス化、食の提供を行います。
- また、認知度向上に向けて SNS 等による多言語での情報発信を行います。
- さらに、高齢者や障がい者など様々な観光客が快適に楽しめる観光地づくりに向けて段差の解消や多目的トイレの設置などユニバーサルツーリズムの実施を目指します。
- 加えて、ハード整備だけではなく、心のバリアフリーを目指し関係機関に対し勉強会を開催します。

#### 【取組】

状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
継続	①外国人観光客にやさしい情報発信、おもてなし	観光物産協会	観光イベント課
継続	②宿泊施設ユニバーサル化促進事業	観光イベント課	産業政策課
新規	③心のバリアフリーに関する勉強会	観光イベント課	スポーツ課

### 展開施策 31 MICE 受入体制の構築と推進

- ・うるま市は世界遺産勝連城跡や石川多目的ドーム等のイベントや会議・レセプションにおいて、特別感や地域特性を演出できる会場になり得る地域資源を有しています。
- ・関連事業者と連携しながら MICE の開発を行うとともに継続的に販売・受け入れが可能な実施体制を構築し、積極的なプロモーションを推進します。

【取組】

状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
継続	①世界遺産勝連城跡や石川多目的ドーム等の地域資源を活用した MICE の推進	観光イベント課	プロジェクト推進2課 観光物産協会

### 展開施策 32 市内へのアクセス及び市内周遊性の向上

- ・うるま市の観光振興にあたっての課題として市内へのアクセス、市内周遊の向上があげられています。
- ・周辺都市からのゲートウェイのひとつである石川 IC 周辺においては交流拠点を形成することで、うるま市への立ち寄りのきっかけを創出します。
- ・また、地域住民のみならずワーケーション等の滞在者の利用も想定した、公共交通ネットワーク構築など、市民や観光客など、誰もが快適で利用しやすい交通環境の実現を図ります。
- ・さらに、持続可能な観光について、津堅島では、グリーンスローモビリティの推進など、環境に配慮した交通インフラの構築を図ります。
- ・加えて、バス、タクシーからライドシェア、シェアサイクルなどあらゆる交通機関を、IT を用いてシームレスに結びつける MaaS の推進を図ります。
- ・沖縄本島中部東海岸や島しょ地域の観光振興に繋がると期待される沖縄北 IC と海中道路を結ぶ高規格道路「中部東道路」の早期実現に向けた働きかけを推進します。

【取組】

状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
継続	①総合交通戦略に基づく施策の推進	都市政策課	道路整備課
継続	②自転車ネットワーク計画に基づく施策推進	都市政策課	スポーツ課 道路整備課
新規	③グリーンスローモビリティ、MaaS の推進	都市政策課 観光イベント課	産業政策課
継続	④中部東道路の整備推進	都市政策課	産業政策課 観光イベント課

## 基本施策 5-2. 観光危機管理対策の推進

### 展開施策 33 関係機関と連携した減災対策の推進

- ・観光まちづくりにあたっては災害時を見据えた観光客の安全・安心の確保が重要です。
- ・観光客が安全・安心に過ごせるよう災害時における早期帰宅支援及び情報提供等の観光危機管理の対策を講じます。
- ・また、観光客に対する危機管理として、災害時の避難計画、支援計画など、地域防災計画の改訂を踏まえた取組を推進するとともに、発災時を想定し平時から宿泊施設やマリインレジャー事業者等の観光事業者と連携を図ります。

【取組】

状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
継続	①うるま市観光危機管理計画と連携した、災害時の避難計画、支援計画の推進	観光イベント課 危機管理課	観光物産協会
継続	②観光関連団体、事業者等との連携充実・強化	観光イベント課 危機管理課	観光物産協会

## 基本施策 5-3. おもてなしの充実

### 展開施策 34 観光人材の育成支援

- ・着地型観光を推進するためには、ツアーオペレーター、ツアーガイド、インストラクター等の育成が重要です。
- ・外国人観光客の誘客にあたっては、外国語で案内できるガイドも必要です。観光物産協会と連携し、地元住民を含めた人材育成を推進します。
- ・また、観光闘牛やマリンスポーツ等の体験型観光商品について、プレイヤーの育成や組織化、商品販売窓口の設置を進めます。
- ・さらに、「うるま市文化財ガイドの会」のサポートも継続しており、文化財講座の改善を行い、ガイドの育成を図ります。

【取組】

状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
新規	①外国人観光客への対応	観光イベント課 観光物産協会	—
新規	②インストラクター・ガイドの養成	観光物産協会	観光イベント課
新規	③着地型観光推進の人材育成の計画支援、「うるま市文化財ガイドの会」のサポート継続	観光イベント課 商工振興課 文化財課	観光物産協会

展開施策 35 シビックプライドとおもてなしの醸成

- 持続的な観光まちづくりのためには、うるま市民が自分たちの住むまちを誇りに思い、自慢するよ  
うなシビックプライドを醸成し、観光客をおもてなしすることで交流人口や消費向上につなげ、「受  
け入れて良かった」と思える好循環を図ることが重要です。
- シビックプライドの醸成を目的としてうるま市民がうるま市について知る機会を創出します。
- また、うるま祭り等のイベントにおいて特産品や闘牛等に触れる機会や、あまわりパーク、東照間  
商業施設等の観光拠点やマリンレジャー等の観光プログラムを市民が日常的に体験する機会を創  
出します。そして、その知識を活用してまちづくりに取り組もうとする意識を高める機会を創出し  
ます。
- さらに教育関係者との連携により、子どもたちに世界遺産勝連城跡や「現代版組踊劇 肝高の阿麻  
和利」をはじめとしてうるま市の歴史、自然、その他の資源等について教える機会を創出します。  
「第2次うるま市総合計画」における基本目標の一つである「郷土に誇りをもち未来を拓く人づく  
り」の一環として、取り組みを推進します。

【取組】

状況	取組内容	推進主体	関係部署・団体
継続	①ホームページ等の更新、情報発信（市民向け・シ ビックプライドの醸成）	観光イベント課	秘書広報課
継続	②シビックプライドとおもてなしの醸成	観光イベント課 商工振興課	商工会 観光物産協会
新規	③地域に対する観光の貢献度可視化	観光イベント課	秘書広報課 観光物産協会
継続	④子どもの郷土愛を高めるプログラムの展開	文化財課	観光イベント課
新規	⑤めんそーれ！うるま！！おもてなし観光の推進	観光イベント課	観光物産協会